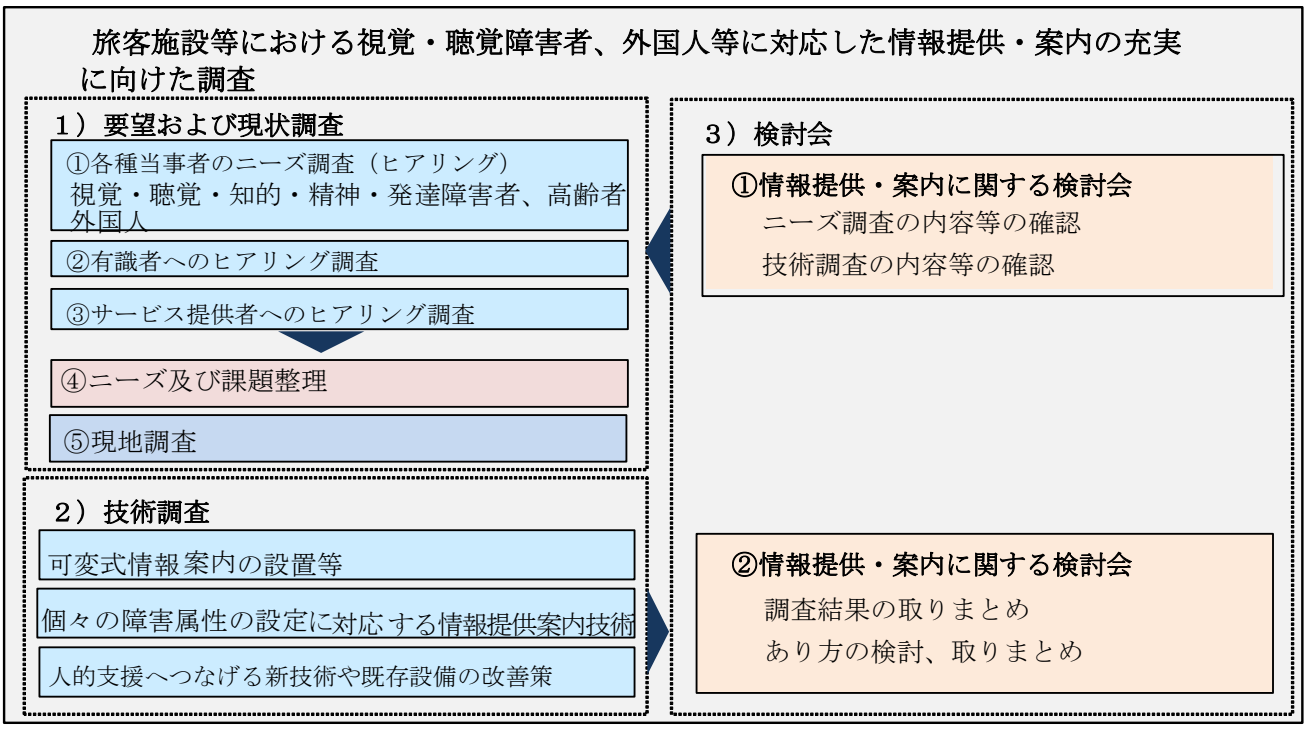
資料３

ニーズ調査、技術調査の進め方について



（１） ニーズ調査：

旅客施設の利用シーン別に、視覚・聴覚障害者等がかかえる情報案内に対する課題やニーズについて、ヒアリング等を行う

〇対象者：当事者団体、学識経験者、
サービス事業者（鉄道事業者、ＩＣＴ開発事業者等）

〇調査内容

◆シーン別のヒアリング：鉄道駅の利用を想定。

（例）

・駅の出入口
・チケット購入
・改札
・構内コンコース
・ホーム
・車両
・緊急時、非常時の情報案内　等

◆先進的技術に対するヒアリング

技術の有用性、実現性、可能性への期待　等

〇調査時期：１月

（２） 技術調査

事前に実施した技術調査（資料４）に加え、以下の技術調査を行う。

〇対象者候補（予定）

①開発事業者へのヒアリング

・パナソニック株式会社、日本電信電話株式会社、富士通株式会社、日本電気株式会社

・Ｓｈａｍｒｏｃｋ　Ｒｅｃｏｒｄｓ株式会社（ＵＤトーク開発元）、

・グーグル合同会社、ジョルダン株式会社、株式会社ヴァル研究所（駅すぱあと開発元）

など

②交通事業者へのヒアリング等

・東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社、東京国際空港ターミナル株式会社

など

※鉄道主要各社に対し、調査票等により技術動向を調査することも視野におく

③関連団体等へのヒアリング

・公益財団法人共用品推進機構

・公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

・公益財団法人鉄道総合技術研究所　など

〇調査項目：

① 開発済み、又は開発中の情報案内に資する技術
技術の普及にあたって認識している課題　など

② ＩＣＴ等を活用した情報案内サービス設備等の現状及び今後の計画
利用者から寄せられる声などのニーズ
ＩＣＴ等を活用した情報案内サービスを提供する上での課題　など

③ ①及び②について、全般的な動向

〇調査時期：１月～2 月

（３） 現地調査

優良事例となり得るＩＣＴ等を活用したサービス提供を行っている駅等において、当事者を含めた現地確認により、その有用性の確認を行う

〇調査方法：当事者モニターを含めた現地観察（観察後のアンケートを含む）により検証

〇調査対象：現にサービス提供が行われている駅等（数箇所程度）

〇実施時期：平成２９年１月中旬以降～２月

〇モニター：視覚・聴覚・知的・精神・発達障害者、高齢者、外国人